

平成 25 年度

病害虫発生予報第 2 号

平成 25 年 5 月 23 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	13
5. 今月のトピックス(チャノホソガについて)	14
6. 気象のデータ	15
7. おしらせ	17

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、葉いもちの発生時期は**平年並**、発生量は**平年並**と予想されます。イネクロカメムシの発生量は**やや少**、イネミズゾウムシの発生時期は**遅**、発生量は**少**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は**やや多**と予想されます。発生が認められる圃場では、薬液が葉裏にかかるよう、ていねいに薬剤散布してください。そうか病、黒点病、かいよう病(温州みかん、中晩柑類)の発生量は**平年並**、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**やや多**と予想されます。発病部位は取り除いて圃場外で適切に処分し、薬剤散布してください。ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は**やや多**と予想されます。降雨の状況に注意して、予防散布に努めてください。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、炭疽病、もち病、カンザワハダニ、チャノミドリヒメコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**、チャノホソガの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病、炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。

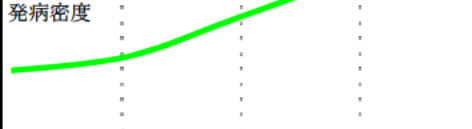
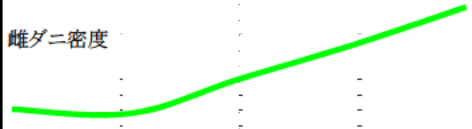
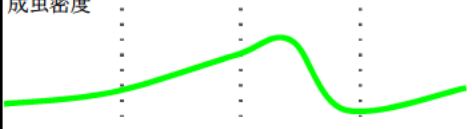

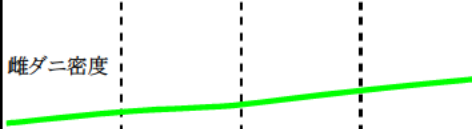
ネギでは、ネギコガの発生量は**平年並**と予想されます。

野菜共通では、コナガの発生量は**やや少**と予想されます。

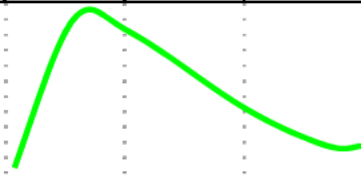
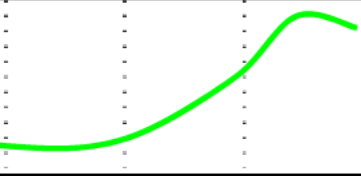
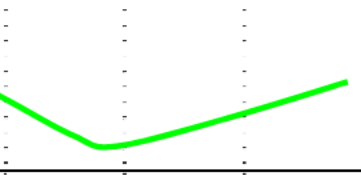

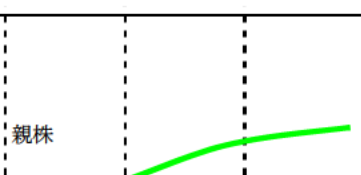
農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

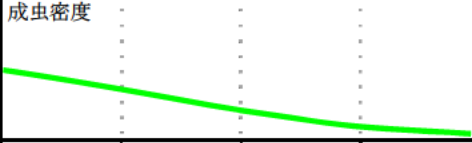
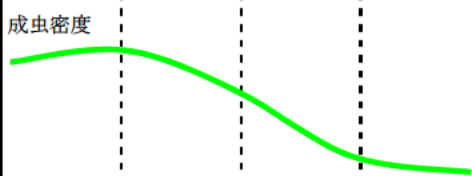
2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	平年並	平年並	小	普通		<ul style="list-style-type: none"> 1) 補植用置き苗は発生源となるので、速やかに除去し、枯死させてください。 2) 本田粒剤による予防は、初発前に行ってください。 3) いもち病発生予測支援システム(プラスタム)において、感染好適条件の現れた7~10日後に初発が予測されます。 4) プラスタムの最新情報は病害虫防除所ホームページで随時更新しています。 			
	イネクロカメムシ	—	やや少	小	低		<ul style="list-style-type: none"> 1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークとなる6月下旬に実施してください。 			
	イネミズゾウムシ	遅	少	小	低		<ul style="list-style-type: none"> 1) 株当たり0.5頭以上の成虫が発生していれば、防除してください。 			
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通		<ul style="list-style-type: none"> 1) 梅雨明けまで、幼果に感染します。 2) 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、発生している園地では、予防散布が重要です。 			
	黒点病	—	平年並	小	普通		<ul style="list-style-type: none"> 1) 生理落果盛期~後期に予防散布を実施してください。 2) 上記薬剤散布後、積算で200mm以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。 3) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内や圃場内の枯枝を除去して下さい。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						5月		6月			
						下旬	下旬	中旬	下旬		
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 旧葉で越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果での発病を防ぐため、感染を助長する降雨等の気象条件に注意し、ボルドー剤による予防防除を実施してください。 2) 越冬病斑が見られない圃場でも、本病に弱い品種(カラ、セミノールなど)では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。 3) 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで、果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	—	やや多	中	普通	雌ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくい時期です。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。 2) 冬期防除が実施できなかった等により発生密度が高い圃場では、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年1回としてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 例年被害の多い圃場では、6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 圃場内をよく観察し、発病が認められる場合は速やかに防除を実施してください。 2) 発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。 3) 薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	雌ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 防除の目安は成虫の1葉当り寄生頭数が1頭以上の時です。 2) 殺ダニ剤に対する抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ブドウ	べと病	—	やや多	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 雨が連続すると急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察して、病斑を認めたら、直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害果穂は、発見次第取り除いて、圃場外に持ち出し処分してください。
果樹共通	カメムシ類	—	少	小	低				<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は初夏までの圃場飛来は少ないと予想されます。 2) 圃場や付近の街灯などを観察し、初期の飛来を確認してください。夜温が急に高くなると、活発に飛翔します。 3) 山林近くの常発地等では、飛来を確認したら防除を実施してください。 	
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通	発病			<ol style="list-style-type: none"> 1) 降雨と適温(25℃前後)が揃うと柔らかい新芽に感染します。 2) 旧葉に病斑葉が多いところでは注意してください。 3) 窒素過剰は発病を促します。 4) 開葉初期に防除しましょう。 	
	もち病	—	平年並	小	低	発病			<ol style="list-style-type: none"> 1) 山間地や日陰になりがちなどところでは、風雨があると適温と多湿条件となり発生しやすくなります。 2) 萌芽期が防除適期です。 	
	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通	雌ダニ密度			<ol style="list-style-type: none"> 1) 葉裏に寄生し、新葉が黄色くなり落葉しやすくなります。 2) 世代交代が早く、急増することがあるので、発生密度の低い時期に防除しましょう。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。また、天敵への影響を考慮して薬剤を選んでください。 	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
							下旬	上旬	中旬	
チャ	チャノホソガ	—	やや少	小	普通	成虫密度		1) 成虫の飛来状況と新芽への産卵状況に注意してください。成虫の飛来状況は病害虫防除所のホームページを参考にしてください。 2) 防除適期は孵化直後の潜葉期(絵描き状態)です。		
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通	成虫密度		1) 成虫で越冬し、新芽の伸長とともに発生が増加します。 2) 新芽を加害し、先端から褐変して落葉することもあります。 3) 萌芽～開葉初期に防除しましょう。		
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	低	成虫密度		1) 新芽の伸長とともに発生が増加しますので、開葉初期に防除しましょう。 2) 成虫で越冬し、新芽の葉裏に産卵し加害します。		
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	中	普通	親株		1) 今後 1 か月は感染しやすい時期です。圃場をよく観察し、早期発見に努め、発病葉は適切に処分してください。 2) 育苗圃で発生が多いと本圃でも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成してください。 3) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。		
	炭疽病	—	平年並	中	普通	親株		1) 高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。 3) 罹病株は感染源となります。見つけ次第速やかに除去し、圃場外に持ち出して処分してください。 4) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。灌水時は、跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう注意してください(やさしく手灌水、チューブ灌水)。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通	成虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> 1) 春から秋にかけて4～5回発生します。 2) 幼虫が葉の内部に潜り、表皮を残して食害します。そのため、潜入防止のための早期防除が重要です。
野菜共通	コナガ	—	やや少	小	普通	成虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、大きな被害は見られませんが、繁殖力が旺盛なアブラナ科野菜の重要害虫です。 2) 中、老齢幼虫になるに従い、殺虫効果が低くなります。若齢幼虫のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性の発達しやすい害虫であるため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は天気は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想(発生時期±、発生量±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、置き苗での発生率0%(5年平均0%)、本田での発生圃場率0%(5年平均0%)と、平年並に少ない傾向(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 今後の気象条件から予想発生時期は平年並、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・昨年8月第2半旬~10月第6半旬)では、誘殺数は水田位置14頭(平年66.0頭)と少、畑位置862頭(平年2612.4頭)と少(-)</p> <p>2) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~5月第4半旬)では、誘殺数は水田位置0頭(平年0.2頭)と平年並に少、畑位置1頭(平年6.0頭)とやや少(-)</p> <p>考察: 予察灯の状況から越冬成虫数は少ないと考えられるため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	遅	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~5月第4半旬)では、越冬成虫の最盛日は5月13日(平年5月4日)と遅(発生時期+)</p> <p>2) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~5月第4半旬)では、誘殺数は9頭(平年57.6頭)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、発生圃場率42.7%(平年69.0%)と少、被害株率13.3%(平年28.7%)と少、株当り虫数0.03頭(平年0.05頭)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無~平年並(概して少)(-)</p> <p>考察: 予察灯の状況から幼虫の予想発生時期は遅、予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況から、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 県予察圃(5月中旬、無防除)では、新葉発病率 82.5%(平年 34.7%)と多(+)、発病果率 0%(平年 0.3%)と平年並(±)(+) 3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、旧葉発病度 0(平年 0.04)と平年並 (±) 4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±) <p>考察：巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して現状の発生量は平年並と考えられ、大きな増加の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 巡回調査圃場では、昨年10月上旬の果実発病度 12.4(平年 12.6)と平年並 (±) 3) 感染源となる枯枝は平年並の状況 (±) <p>考察：平年と比べて大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 県予察圃(新甘夏、無防除)における新葉での初発は、5月8日(平年5月14日)と早 (+) 3) 県予察圃(5月中旬、新甘夏、無防除)では、新葉発病率 0%(平年 1.9%、ただし6か年は0%)と平年並 (±) 4) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、旧葉発病率は温州みかんでは 0%(平年 0.3%)と平年並(±)、中晩柑類では 6.0%(平年 8.9%)と少(-) (±) 5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±) <p>考察：温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少と考えられ、大きな増加の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、現状の発生量は平年並と考えられ、予想発生量は引き続き平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(5月中旬)では、100 葉当り寄生頭数は、無防除区 11.1 頭(平年 31.8 頭)と少(-)、慣行防除区 0 頭(平年 0.6 頭)と平年並(±) (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、発生圃場率 46.2%(平年 40.0%)と多、旧葉寄生率 13.8%(平年 11.6%)とやや多、寄生頭数 1.20 頭/葉(平年 1.15 頭/葉)と平年並 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 巡回調査結果および一般圃場の状況を重視して現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃黄色粘着トラップ(5月上旬)では、誘殺数 0.13 頭/日(平年 0.28 頭/日)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、発病葉率 0%(平年 0.3%、ただし5か年は0%)と平年並(±)だが、一部圃場で幼果や果梗部での発病を確認(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場では、昨年8月上旬の発病葉率 2.2%(平年 1.6%)とやや多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並ですが、昨年の発生状況から病原菌の越冬密度は高いと考えられ、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、寄生葉率 0%(平年 0.02%)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少なく、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ブドウ	べと病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、発病は未確認(平年発病葉率0%) (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並だが、昨年秋の発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少ないですが、昨年の発生状況から病原菌の越冬密度は高いと考えられ、予想発生量はやや多と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:5月1日~10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ2頭(平年398頭)、ツヤアオカメムシ15頭(平年1191頭)といずれも少 (-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:5月1日~20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ3頭(平年77頭)、ツヤアオカメムシ5頭(平年14頭)といずれも少 (-)</p> <p>3) フェロモントラップ(5月1日~8日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で31頭(平年50頭)と少、中間地(津市白山町二本木)で50頭(平年64頭)とやや少、平坦地(松阪市嬉野川北町)で3頭(平年11頭)と少 (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第2~3週、カンキツ圃場)では、叩き落とし虫数0頭(平年0.2頭)と平年並 (±)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>
チャ	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、新葉の発病葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、新葉の発病葉数0枚/m²(平年0.12枚/m²)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	もち病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(一番茶期)では、新葉の発病葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、新葉の発病葉数0枚/m²(平年0枚/m²)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	カンザウハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 三重県農業気象速報によると、5月上中旬は平年に比べ晴れた日が多く、多照で推移 (+) 3) 県予察圃(5月上旬)では、寄生葉率2.0%(平年7.6%)と少、寄生頭数0.04頭/枚(平年0.44頭/枚)と少 (-) 4) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、新葉寄生率4.9%(平年4.3%)と平年並、寄生頭数0.08頭/枚(平年0.09頭/枚)と平年並だが、旧葉では寄生葉率11.7%、寄生頭数0.34頭/枚と多の傾向 (+) 5) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられますが、5月上中旬の気象条件および巡回調査結果から今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 県予察圃フェロモントラップ(3月第5半旬~5月第2半旬)では、誘殺数768頭(平年1137.2頭)とやや少 (-) 3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、巻葉数0.1枚/m²(前年0.1枚/m²)と平年並の傾向 (±) 4) 一般圃場では、発生量は少 (-) <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第5半旬~5月第3半旬)では、捕殺数0頭(平年3.3頭)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、たたき落とし虫数1.1頭(平年1.4頭)とやや少 (-) 4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+) <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±) 2) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第5半旬~5月第3半旬)では、捕殺数42頭(平年709.8頭)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(5月第2~3週)では、たたき落とし虫数5.1頭(平年4.9頭)と平年並 (±) 4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±) <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、本圃及び親株床の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、現在、親株床で目立った発生はなし (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第5半旬～5月第4半旬)では、誘殺数125頭(平年136.3頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、被害葉率0%(平年0.1%)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と考えられ、今後大きな増加要因がないため、予想発生量は平年並と考えます。</p>
野菜共通	コナガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月17日発表)によると、期間の前半は数日の周期で天気が変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第5半旬～5月第4半旬)では、誘殺数52頭(平年193.3頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、今後大きな増加要因がないため、予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「チャノホソガについて」

1. どんな虫？

茶の重要害虫のひとつで、製茶品質を低下させます。成虫は体長 4～5mm 程度の微小な蛾です(図1)。幼虫は茶の新芽を加害し、三角形の巻葉(図2右)をつくるので「サンカクハマキ」とも呼ばれます。

2. 生態と被害

年間5世代～6世代発生します。蛹で越冬し、3月中旬頃から4月上旬より羽化が始まります。高温には弱く、発育停止温度は30℃です。

孵化幼虫は新芽裏から潜行、食害します(図2左)。3齢幼虫になると分散し、葉を縁から二つに折り曲げ、巻葉をつくり中に入って食害します(図2中)。巻葉の混入率2%以上(重量割合。摘採葉100芽に対して巻葉4.1枚以上に相当)になると、香り、水色、滋味などの製茶品質が低下します。三角巻葉が発生するのは0.9葉期までに産卵された場合です。

3. 防除のポイント

防除適期は、孵化直後の潜葉期(1～2齢幼虫期)です。若齢幼虫を対象に葉裏に薬剤が十分かかるように防除しましょう。

新芽に産卵しますので、新芽がないと成虫の飛来が多くても防除の必要がありません(図3)。病虫害防除所のホームページ(<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>)に、農業研究所茶業研究室(亀山市)におけるフェロモントラップ誘殺状況を掲載していますので参考にして下さい。

薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避けましょう。

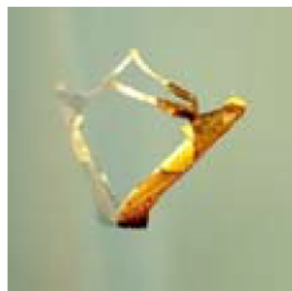


図1 チャノホソガ成虫
(農業研究所茶業研究室原図)



図2 チャノホソガ幼虫による潜葉(左:2齢)・巻葉(中:3齢)・三角巻葉(右:矢印)
(農業研究所茶業研究室原図)

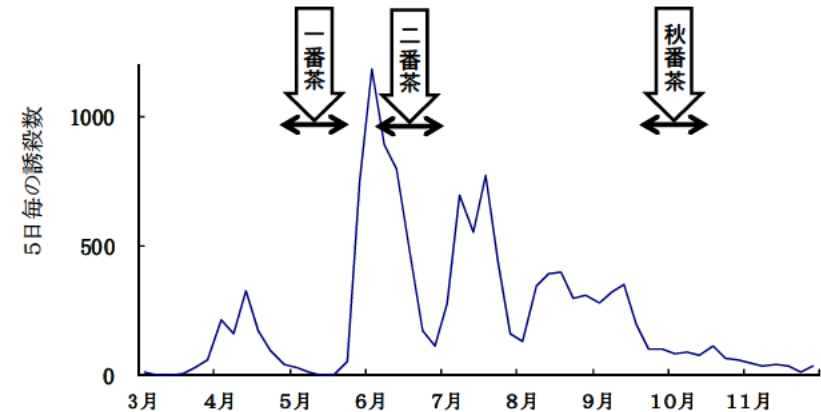


図3 県予察圃(亀山市 農業研究所茶業研究室)における
チャノホソガ成虫のフェロモントラップによる平年発生消長

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 25 年 5 月 17 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、前半は低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わるでしょう。後半は低気圧や前線の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

1 週目 5 月 18 日～ 24 日	期間のはじめと期間の終わりは高気圧に覆われて晴れますが、中頃は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.2 日・4.0 日
2 週目 5 月 25 日～ 31 日	低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わるでしょう。湿った気流の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。	同 2.0 日・4.2 日
3～4 週目 6 月 1 日～ 14 日	低気圧や前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	同 4.3 日・7.2 日

東海地方週間天気予報 (平成 25 年 5 月 22 日 10 時 35 分 名古屋地方気象台発表)

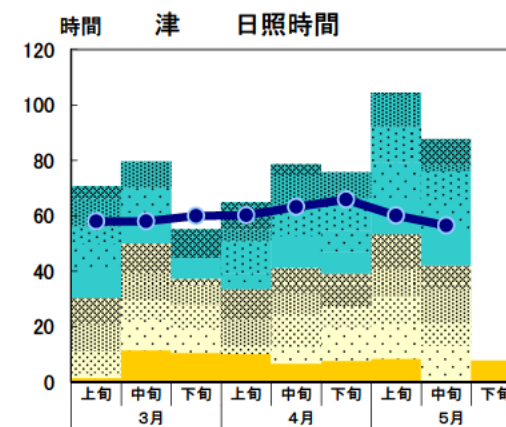
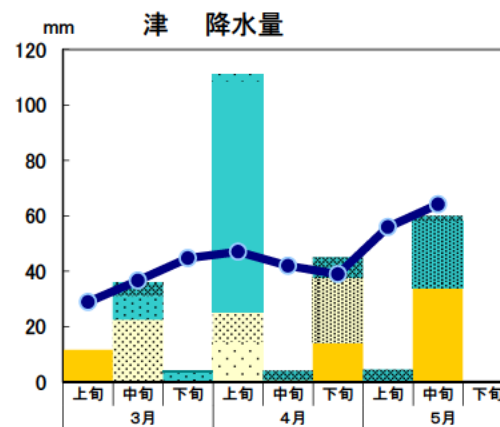
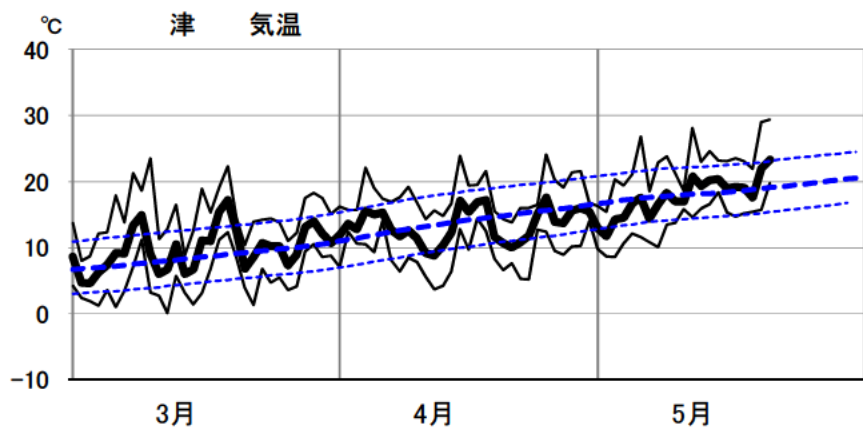
予報期間 5 月 23 日～5 月 29 日

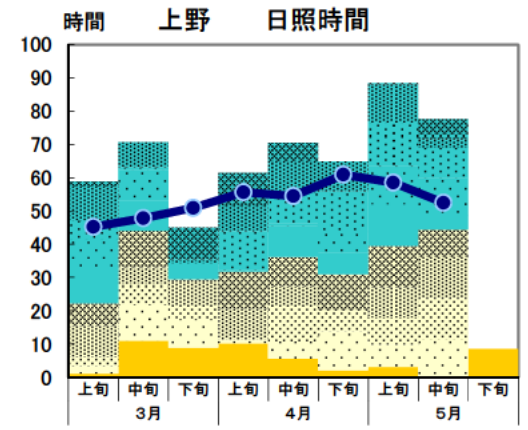
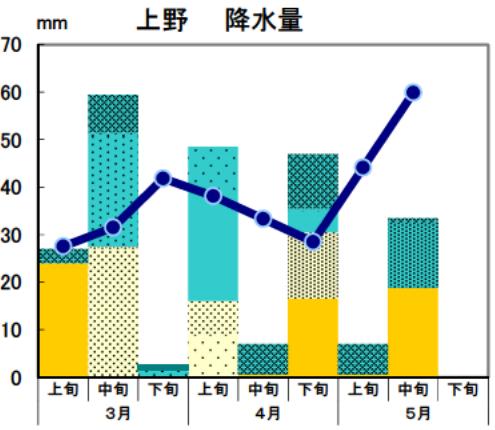
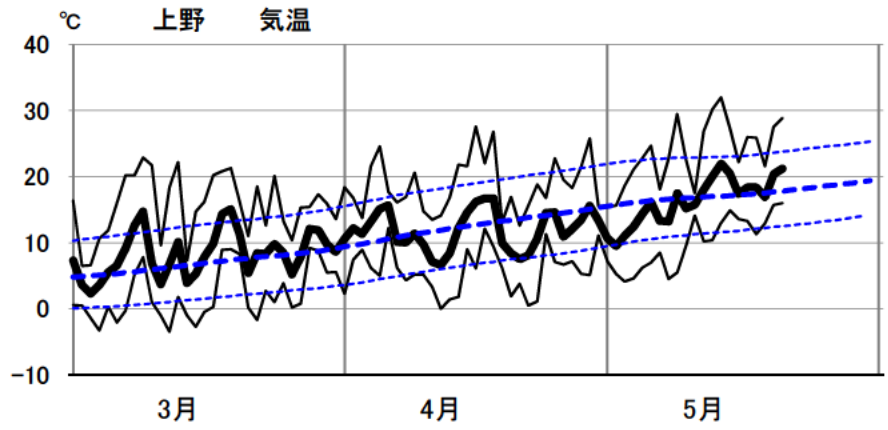
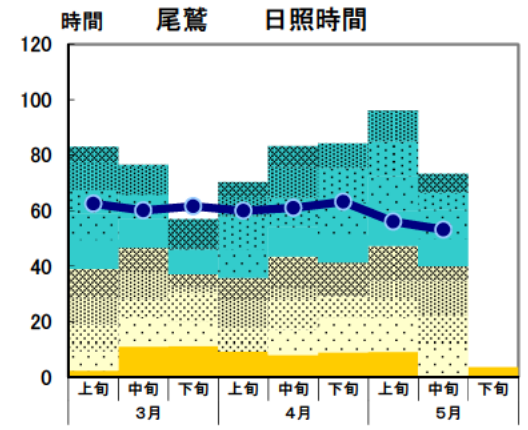
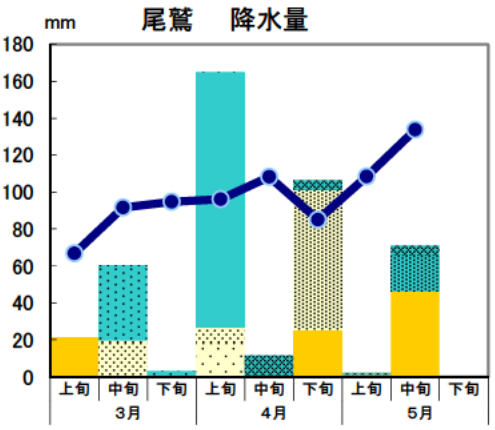
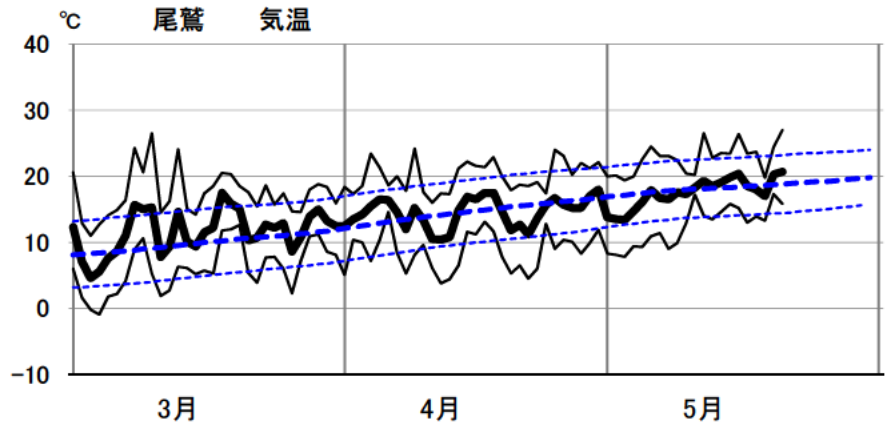
向こう一週間は、期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。後半は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日がある見込みです。

最高気温は期間の前半は平年より高く、かなり高い所もあるでしょう。後半は平年並の見込みです。最低気温は、平年並か平年より高いでしょう。

降水量は平年並の見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (5 月 21 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月25日(済み) | 第2回 5月23日(今回) |
| 第3回 6月20日(木) | 第4回 7月25日(木) |
| 第5回 8月29日(木) | 第6回 10月24日(木) |
| 第7回 3月20日(木) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h25yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm